

ら い 来ぶらり

図書館へ気軽にぶらりと来館していただきたいという思いで命名しました。

図書館を英語で「Library(ライブラリー)」といいます。

No. 117 6月号

2015年6月1日 発行

たつの市立図書館

龍野図書館 TEL(0791)62-0469

新宮図書館 TEL(0791)75-3332

揖保川図書館 TEL(0791)72-7666

御津図書館 TEL(079)322-1007

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/library/index.html>



携帯専用サイトへは、
左のQRコードから
(<https://www.lib015.nexs-service.jp/tatsuno-city/mobile/index.do>)

読書と私 No.109

「骨董と読書」

揖保川町 古賀 久富

私は古書、写真、筆記用具に興味を持ち、見かけたら、素通りできません。「掘り出し物」を目当てに早朝から家を出ますが、会場(神社)の境内にある賽銭箱さいせんに入れる金額がいささか貧血気味きなので神様が私にソッポを向かれるせいか、「掘り出し物」には出会えません。そんな時には「奇貨居くべしかお ことわざ」の諺どおり、少々高くても買って置いて、「今すぐ必要な品ではないが、後で何かの役に立つ」と考えます。

縁あって、揖保川・龍野両図書館の読書会へ入れていただき、自転車でゆっくり途中の景色を

楽しんでいますが、その読書会で使う資料の「イラスト等」に前述の品を活用しようと目論んで、メンバーの失笑を買っています。

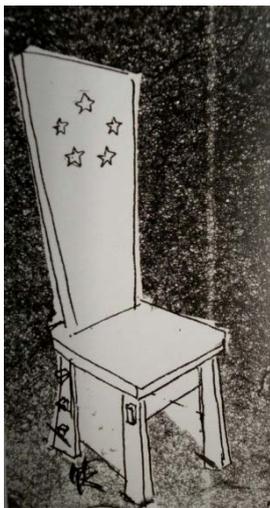


イラスト 古賀 久富さん

さて、鈍感で、更に、パソコンも使えないので「読書」が満喫できないと思っていた私でしたが、本に関することをお願いした時など、フットワークの良さ(失礼)と館員の方々の見事な連携プレーで資料が見つかりびっくりさせられ、図書館という恵まれた環境の中いることに初めて気がついた次第です。

話は変わりますが、「来ぶらり」の5月号の「ななつ星の椅子」を見逃し残念。椅子と言えば、どこかでみたマッカーサーに白洲次郎が贈った椅子—ファイブスター?—にいつの日にか座ってみたいと思います。

※『読書と私』は図書館の利用者に執筆していただいています。

『猟師の肉は腐らない』 小泉 武夫著 新潮社



食文化や発酵学の研究を専門とする農学博士の著者は、東京の小さな居酒屋で店主として働く猪狩義政（以後、義っちゃん）という人と知り合う。義っちゃんは修行僧など様々な仕事をしながら世界中を巡ったあと故郷福島

県八溝の山に戻り、愛犬のクマと暮らしている。そこへ著者が夏と冬に分けて訪問し、体験した事を記したものである。

義っちゃんは、電気も水道もない小屋に住み、あらゆる食料は自給自足で賄い、猪肉などを売り生活の糧にしている。川では岩魚いわなや山女やまめ、山では猪や兎、また地蜂じぼちや蝮まむしなどをとって食料にする。それぞれの獲物にはその習性を利用した捕獲法があり、次々とそれを披露してゆく。また食料の保存方法にも工夫が凝らされており、肉などは燻製にして保存する。義っちゃんが作る食事は、世界中の食文化を研究している著者

でさえも初めて口にするものが多く毎日が驚きの連続であった。そしてそのどれもが美味しくその時の食感や味が独特に表現されており著者の心躍る様子が伝わってくる。

著者が一緒に山へ猟に出た時、ヤマカガシという蛇に噛まれ、義っちゃんがその辺にあったペンペン草と蓬草で素早く手当し事無きを得た。薬草に対する知識も豊富である。また、愛犬のクマが、120キロくらいもある手負いの猪に襲われ瀕死の重傷を負った時に義っちゃんは、麻酔薬を打ち、獣医顔負けの手早さで傷口を縫合しクマの命を助けた。山で生きていくために色々なことを試した先人たちの、知恵と工夫がしっかりと受け継がれている。

生活ぶりからは一見豪快に思える義っちゃんであるが、すべての自然や生き物に感謝し、なによりも命の尊さを感じながら猟師として生きていることが著者との会話から伝わり、温かく繊細な心を持った人間的魅力の持ち主であることが伺える。山の暮らしと比較し、現代の生活を改めて考えさせられる一冊である。

(龍野図書館 河部)

トピックス

市制10周年記念事業



揖保川図書館 読書講演会

— 郷土の人物を知る —

播磨の名パイロット大蔵清三氏の紹介

新聞社所属パイロットの草分け、大蔵清三氏（揖保川町出身）の活躍と航空機設計の現場について原田昌紀さんに講演していただきます。



【講師】原田 昌紀（関西航空史料研究会会員）

著書『航空黎明期 郷土「播州」の名パイロット 大蔵清三氏の記録』

【日時】6月14日(日) 午後1時30分～午後3時

【場所】アクアホール研修室(3階) 【対象】一般 【定員】40名(要申込)

【申込先】揖保川図書館

おすすめする子どもの本・108

『まりーちゃんとひつじ』 フランソワーズ 作・絵 岩波書店

まりーちゃんは、木の下に座って、羊のぱたぽんに言いました。

「ぱたぽん、おまえはいつか こどもを1匹き うむでしょう。そしたら わたしたち その毛を うって、すきなものがなんでも かえるわね、ぱたぽん。」

するとぱたぽんは、ふわふわの毛をたくさん作ってくれることを約束してくれました。

2匹産んだら
新しい靴を、3
匹産んだら赤い
帽子を、4匹産
んだらメリーゴ
ーラウンドに乗
って、5匹産ん
だらお人形とお
もちゃと風船を

と、まりーちゃんの夢は膨らみますが、その度、ぱたぽんは、「でも、わたしたち、みどりの はらっぱに すむでしょう。はらっぱには、ひなぎくの はなが きれい きれい、おひさまが いちんち きらきら。」だから何もいらないと言うのです。

その通り、ぱたぽんは子羊を1匹だけ産んで、まりーちゃんには、靴下にちょうどいいくらいの毛糸がとれました。

まりーちゃんとぱたぽんのリズムに乗って繰り返される会話を、シンプルで柔らかいタッチの絵が引き立てます。1匹の子羊をかわいがるぱたぽんを見て嬉しそうなまりーちゃんに、温かな気持ちが残ります。遠くへ泳いでいってしまったアヒルのまできろんを探す「まりーちゃんのはる」も収められています。読んであげるなら4歳くらいから。
(新宮図書館 梅村)

『第九軍団のワシ』 ローズマリ・サトクリフ 作 猪熊葉子訳 岩波書店

ローマ軍の若き司令官マーカスはブリトン人との戦いによって足を負傷したため退役し、失意のうちに伯父の家に身を寄せます。

ある日剣闘士の試合を見ていたマーカスは、ブリトン戦士だったエスカという剣士の命を救い、従者とします。当初は主従関係だった二人でしたが共に過ごすうちに二人の間に友情が芽生え始めます。

そのうちマーカスは、父が率い姿を消してしまった4千人からなる第九軍団の旗印である《ワシ》が、北方氏族の手に渡り、神として崇められているという噂を耳にします。もしそれが真実なら《ワシ》がローマへの反抗の火種になることや、《ワシ》を取り戻すことで父やその軍団の失われた名誉を回復し、第九軍団を再編成できるかも

しれないと考え、エスカと共に困難を極める《ワシ》探索の旅に出ます。

ローマに支配されていた頃のイギリスを舞台に、史実に基づいて描かれた歴史小説。理想の人生を失ったマーカスがエスカとの友情を糧に、苦難を乗り越え新たな希望を見出すまでに成長する姿が胸に残ります。中学生くらいから。

(揖保川図書館 二井優)

各館の行事予定

※詳細は各館へお問い合わせください。

館名	行事	対象(上段) ・ 時間(下段)	6月の予定
龍野図書館 TEL(0791) 62-0469	●えほんのじかん	1～3歳児、保護者 ----- 第2・第3土曜日(11時～11時20分)	13日・20日 『すずめちゅん』他
	子どもの本を読む会	一般 ----- 第2木曜日(10時～11時30分)	11日 『あらしの前』『あらしのあと』 ドラ・ド・ヨング 著
	読書会	一般 ----- 第2金曜日(10時～11時30分)	12日 『一絃の琴』 宮尾 登美子 著
新宮図書館 TEL(0791) 75-3332	●えほんのじかん	2～4歳児、保護者 ----- 第2・第4月曜日、第2日曜日 (11時～11時20分)	8日・14日・22日 『スモールさんはおとうさん』他
	■おはなしのじかん	5歳児～ ----- 毎週土曜日(10時15分～10時45分)	6日・13日・20日・27日 「鬼とあんころもち」他
揖保川図書館 TEL(0791) 72-7666	●えほんのじかん	3～5歳児、保護者 ----- 第2・第3土曜日(10時30分～10時50分)	13日・20日 『ぴちゃん ばしゃん ざぶーん』他
	■おはなしのじかん	小学生以上 ----- 第2・第3土曜日(11時～11時30分)	13日・20日 「七わのからす」他
	読書会	一般 ----- 第3金曜日(10時～12時)	19日 『オタバリの少年探偵たち』 セシル・デイ・ルイス著
御津図書館 TEL(079) 322-1007	●えほんのじかん	0歳児～、保護者 ----- 第2・第3日曜日(11時～11時20分)	14日・21日 『おにぎり』他
	読書会	一般 ----- 第2火曜日(13時30分～15時30分)	9日 『漂砂のうたう』 木内 昇 著
	古文書を読む会	一般 ----- 第2土曜日(13時30分～15時30分)	13日 古文書の解説